

住民投票の結果「否定しないが全てではない」竹内市長

日本海新聞 2013年6月12日

鳥取市議会の6月定例会本会議が11日開かれ、竹内功市長は、昨年5月に市庁舎整備をめぐって実施された住民投票の結果について「無視も否定もしていない」と強調した上で「市庁舎整備を今、考える上で全てではない」との見解を示した。

住民投票では現地での耐震改修案が多数を占めたが、竹内市長は7日の本会議で、JR鳥取駅近くの旧市立病院跡地への新庁舎建設を柱とする整備の方向性を表明しており、共産党の伊藤幾子議員が一般質問で市長の考えをあらためてたどした。

竹内市長は、耐震改修案が議会による検証で実現不可能と判断されたことなどに触れ、「単に当時の票数だけが金科玉条ではない。そこに示された市民の思いを理解し、その後の検討結果を踏まえた議論をすべき」と訴えた。

また住民投票や今年5月に公表された市民意識調査には、市庁舎整備に費用を掛けないでほしいという市民の意思が表れているとの認識を示し、「できるだけ費用の少ない全体構想をまとめた」と述べた。

これに対して伊藤議員は「市長は住民投票後、結果を尊重すると言ったはず」と批判した。